

香港の中等教育における新しい時代の日本語学習への提言
— 順徳聯誼總會翁祐中學の事例から —
Proposal for the new era Japanese language education in
secondary school in Hong Kong
-A case of Shun Tak Fraternal Association Yung Yau
College

宮崎 紀子
香港中文大学日本研究学科

1. はじめに

国際交流基金の 2006 年の調査によると(1)、香港の日本語学習者数は、32959 人で、教師数は 704 人、機関数は 112 校に上る。香港における 2009 年度の日本語能力試験受験者は 7 月と 12 月実施分の合計が 1 万 7866 人で、前年より 2452 人上回っている。(2)若年層の受験者が増加傾向を示し、低年齢化が進み、裾野も広がっている。街には日本製品が溢れ、いわゆる ACG (アニメ、漫画、ゲーム) が、若者を中心に多くの支持を得て、大学生主催のアニメ・ソング歌唱コンテスト(3)などのイベントも開かれている。2004 年の 4 月に日本への 90 日間の短期観光ビザの免除が始まったことで日本を訪れる香港人も増加した。また、香港はここ 3 年間、日本の農水産品の輸出先第 1 位となっている。(4)また、両国間でのワーキングホリデー制度も 2010 年 1 月から開始されている。(5)一方で、ある教育機関の「日語証書課程」のパートタイムプログラムでは、2008 年をピークに、2009 年、2010 年と学習者が減り始め、2010 年度秋入学のコースでは学習者の減少が顕著であった。(6)また、別の教育機関でも、2010 年度秋開始の日本語コースは前年度比 20%の減少率を示し、また、コース継続率は 15%減少した。その原因は日本の国際社会におけるプレゼンスの低下にあるという指摘もある。(7)

以上のような状況の中、2009 年 11 月に香港日本語教育研究会が行った調査によると、日本語教育を実施している中学校が 44 校確認されている。その内の 12 校は 2009 年 9 月開始の新後期中等教育カリキュラム (「新高中課程」、New Senior Secondary Curriculum) で大学受験科目として日本語プログラムを実施している。それ以外の 32 校では、3 校が必修科目、4 校が選択科目、25 校が課外活動として行っている。(8) さらに主に成人を対象とした教育機関でも中学生向け日本語コースを開講している。(9)

本研究の目的は、次章に述べる調査方法に基づいて、少しずつ広がりを見せている香港の中等教育における日本語教育(10)のための提言を行う事である。

2. 調査方法

筆者は 2002 年秋から日本語を必修科目として取り入れている順徳聯誼總會翁祐中學(11)を 2005 年から継続調査してきた。本稿では、学習者である生徒に焦点を当て、量的調査と質的調査によって、生徒の「声」を掬い上げることに力点を置いた。片桐(2009)は世論が考えるステレオタイプな若者像と実際の若者の姿は異なる事を指摘している。(12)香港の中等教育での日本語教育推進を語る時、当事者である中学生の目線に立っていたか、彼らの声に耳を傾けていたか、今改めて聞きたい。そして、中学生の置かれている環境を活かした、新しい時代の日本語学習のためのいくつかの提案を行いたいと考える。そのために、順徳聯誼總會翁祐中學を調査対象校に選択し、以下の方法で調査を行った。

①日本語科講師への対面式、電話、電子メールでの資料収集及び聞き取り調査；②中学生へのアンケート調査；③課外活動参加生徒への対面式聞き取り調査；④日本語能力試験 3 級合格の生徒への対面式聞き取り調査及びアンケート調査；⑤日本語授業の参与観察；⑥日本及び日本語教育関係機関への電話、電子メールでの資料収集及び聞き取り調査；⑦日本文化関連行事の参与観察；⑧先行研究、メディア、関連書籍の参照。

3. 生徒へのアンケート調査(13) F4、F6 の学生へのアンケート調査 (2008 年)

質問 1 日本語を学習する前に日本に対するイメージはどんなものでしたか。

(有効回答 131 人) (複数回答可)

1 位	食べ物	72 ポイント	9 位	場所 (東京、大阪等)	47
1 位	アニメ	72	11 位	テレビドラマ	41
3 位	漫画	67	12 位	日本製品	36
4 位	TV スター	53	13 位	伝統文化	23
5 位	音楽	52	14 位	化粧品	20
6 位	映画	50	15 位	歴史	18
7 位	日本の会社	49	16 位	政治	11
8 位	テレビゲーム	48	17 位	その他	4
9 位	ファッション	47	合計		710 ポイント

質問 2 日本語を学習してから、日本に対するイメージはどう変わりましたか。

(有効回答 131 人) (複数回答可)

1 位	食べ物	76 ポイント	10 位	テレビドラマ	53
2 位	アニメ	69	11 位	日本の会社	45
2 位	音楽	69	12 位	日本製品	43
4 位	場所 (東京、大阪等)	66	13 位	テレビゲーム	40
5 位	漫画	63	14 位	歴史	34
6 位	伝統文化	62	15 位	化粧品	22
7 位	映画	60	16 位	政治	15
8 位	TV スター	57	17 位	その他	4
9 位	ファッション	54	合計		832 ポイント

宮崎 紀子：香港の中等教育における新しい時代の日本語学習への提言

—順徳聯誼總會翁祐中學の事例から—

アニメや漫画、音楽、TV スターなど日本のサブカルチャーに関する項目や食べ物を挙げる生徒が多い。また、挙げられた項目が、学習後では1人当たり5.4個から6.4個へと増加している。とりわけ、学習後は歴史と伝統文化の項目が倍増している。日本語能力試験3級合格者の文（ふみ）さん（仮名）（14）も中学校で、書道や折り紙、茶道などを体験し、日本の文化について印象を深めたと語っていた。特に日本料理の実習では普段日本料理を作る機会がないので、作り方を知る事ができ、嬉しかったという。これら2項目については、日本語科の蘇講師は歴史の講師も兼任しており、授業の中で日中の歴史を紹介している事と、在香港日本国総領事館の協力を得て、日本文化体験などの課外活動を活発に行っている事が理由と考えられる。

質問3 F3修了後も日本語学習を継続していますか (有効回答156人)

はい	18人 (12%)	いいえ	138人 (88%)	無効	3人
----	-----------	-----	------------	----	----

<「はい」と答えた人の主な理由> (自由回答)

1位	日本、日本語、日本文化が好き、興味がある	10人
2位	日本の漫画、アニメ、映画、歌を理解したい	4人
3位	いろいろな言葉を学びたい	2人

質問4 「はい」と答えた方—どんな形で学習をしていますか。

1位	翁祐中学	7人
2位	自学自習	6人
3位	日本語学校	2人
3位	コミュニティセンター	2人
5位	個人レッスン	1人
合計		18人

18人中14人が日本や日本語、ポップカルチャーも含めた日本文化に興味を抱いていることが分かった。1位の学校名を挙げた理由としては、意欲のある生徒を対象に、蘇講師が市販の教科書を使用して、課外授業を行っているの、その対象者と思われる。また自学自習をしているという生徒が多く見られた。

質問5 「いいえ」と答えた方—継続しなかった理由は何ですか

<主な理由> (自由回答)

1位	忙しい、時間がない	57人	4位	他の科目で手一杯だ	14人
2位	興味がない	23人	5位	学費が高い・お金がない	12人
3位	学校の正規授業にない	15人	6位	日本語は難しい	7人

他の科目の勉強で忙しくて、時間がないという声が多かった。香港中學會考（Hong Kong Certificate of Education Examination）の準備もあり、現実には正規授業以外での日本語学習は負担が大きいという一面も見られる。また、経済的理由を挙げた生徒も目立つ。全体的に学習のための環境が整っていないとする回答が多く、「日本語は難しい」など、日本語そのものを理由に挙げた生徒は少数だった。

4. 新たな展開—活発化する課外活動

4.1 学びからのフィードバック

翁祐中學では、2008年の夏休みに、地域の中学生を対象とした無料日本語講座を行った。講師は翁祐中學で日本語を3年間学んだF3の生徒がボランティアとして務めた。その講座の詳細だが、蘇講師は、「校長の発案で、無料日本語講座を開講した。授業中、私は側に座って監督したが、教え方などは生徒の自主性に任せた。生徒はインターネットで調べたりして、教材を準備し、仮名と日本の漢字、挨拶、数字、方向などをパワーポイントを使って教えた。最初の回で、私が30分くらい日本語とは何か、日中交流の歴史、地理、外来語、漢語の説明を行った。2003年の夏にも実施したが、その時は8人が受講した。2008年は28人が受講し、全回出席したのは6人だった」と説明した。(15)

この取り組みは、香港政府の可持續發展委員會（The Council for Sustainable Development）により、「人種融合(Racial integration)と社会への貢献(Contribute to society)」を受賞理由に、2007-2008 可持續發展學校獎勵計劃(Sustainable Development School Award Programme)金獎(Gold Award)を受賞した。(16)

4.1.1 ボランティア日本語講師体験から得たもの

2008年の夏休みにボランティア講師を務めた生徒3人へ聞き取り調査を行った。(17)
Kさん(男性)、Chさん(男性)、Lさん(女性)：3人とも日本のアニメが好きである。日本語を教えることに興味を持っていたため、講師として選ばれた。皆、訪日経験はない。

質問内容	肯定的感想	中立的感想	否定的感想
日本語ボランティア講師をしようと思った理由は何か。	楽しそう、面白そうだった。興味が沸いたし、地域の中学生に何かやってあげたいと思った。		
教えてみての感想はどうか。	皆、分かってくれて、質問が出て、答えて、反応があって、そのやりとりが楽しかった。		何を教えるかということが、難しかった。

— 順徳聯誼總會翁祐中學の事例から —

質問内容	肯定的感想	中立的感想	否定的感想
保護者の反応はどうか。	親はすごく喜んでいる。F3 でボランティア教師ができるという事は凄いとやっている。	反応はなく、反対もない。	
ボランティア日本語講師をしてみて、日本語をもっと勉強しようと思ったか。また、具体的な日本語学習の計画はあるか。	日本のテレビを見たり、小説を読んだりしたい。映画を見たり、教科書を読んだりしたい。		
将来、日本語教師になりたいか。日本語で何をしたいか。	日本語教師になりたい。小説の翻訳をしたい。日本で働きたい。ゲームや映画の内容が分かるようになりたい。		
今年もまた講座が開講されたら、やってみたいか。どんなことをやってみたいか。	日本の遊びの文化を紹介したい。言語よりも、日本のお祭りや伝統文化を紹介したい。		
講師体験を通じて、日本語に対する見方がどう変わったか。		日本語が好きで、今も日本語が好きだし、変わらない。日本語は前から難しくないと思っていたし、今もそう思っている。	日本語はそんなに簡単なものではないと感じるようになった。
講師体験を通じて、日本や日本人に対する見方がどう変わったか。		ボランティアのイベントでは大きな変化はないが、1回日本に行ったら、変わるかもしれない。	
講師体験を通じて、自分自身がどう変わったか。	日本語ができるという自信がついた。前は消極的だったが、今ならもっと人に対して積極的に、明るく接することができると思う。日本語に対する興味が増した。		
皆さんにとって、日本語とは何か。	日本語を知っていると日本のテレビ番組の内容がわかる、道具としての日本語だ。私にとって第1外国語だ。新しく、珍しいもので、面白そうなものである。		

日本語を学び、それを教えるという講師体験を通して、日本語に対する自信を深め、日本語への興味が増加したという回答が得られた。また、人に対して、積極性も増したと答えている。日本のポップカルチャーを理解したい、言語よりも日本の伝統文化を紹介したいという声があるが、中学生にとって日本文化がいかに魅力的かが見て取れる。また、自分が学んだ事を伝える立場に立って、日本語を教える楽しさも難しさも知り、日本語学習に対して、学ぶだけの立場とは別の視点で客観的に向き合えるようになったと言える。

4.1.2 日本語講座の教授法への示唆

日本語能力試験 3 級合格者のふみさんは「自分がこの講座の講師に任命されたら、今、マルチメディアはポピュラーなので、エンターテイメントやマルチメディアを通して教えたい。教室では、教科書やプリントを使わない。まず、グループを作り、グループに 1 台ノートパソコンを与えて、アニメを見たかったら、サーチして勉強をしたり、ニュースを見たりする。先生は時々説明したり、手助けをする。学生は先生の言う事を聞いて学ぶのではなく、主体的に自発的に学ぶべきだ。NHK の日本語番組「エリンが挑戦！にほんごできます」の Web 版を見ている。この中学校でも知っているだけで、15 人くらい見ている。YouTube も見ている」と述べた。(18) 今後、再び同様の日本語講座を開講する場合、行われた教授法を内省して記録したり、受講生にアンケート調査を実施するなど、今後の教学に繋がる資料の蓄積を行うと講座をさらに良いものにできるのではと考える。

4.2 日本の高校生との交流会の実施

2008 年 8 月 8 日には三菱商事と読売新聞社の共同企画「第 7 回 海外プロジェクト探検隊—香港・華南インフラプロジェクト体験ツアー」で、日本の高校生が香港・華南地域を訪れたが、その際、翁祐中學を訪問し、生徒と交流を行った。生徒に実施したアンケート調査では、実際に日本人の高校生と交流してみて、日本の高校生に対するイメージが変わったという声が多数見られた。交流会後、読売新聞経由で、日本の高校生から手紙をもらい、また、メールでやりとりもしているという。その共同企画については、「4 日間のスケジュールは香港ラマ島の発電所の見学、広東省深圳の住宅団地の見学と中国民族村の訪問、翁祐中學での交流会、香港公園内の茶館の見学などだった。日本人は恥ずかしがりやというイメージだったが、交流会を通してそれが変わった。交流会のプレゼントも高価で、日本はお金持ちという印象だ。お弁当やキティちゃんグッズなど、備品は全て日本のものだった。日本人は英語が下手というイメージだったが、高校生の中にニュージーランドに留学していた人がいて、流暢に話すので、イメージが変わったようだ。」と蘇講師は振り返る。(19)

4.2.1 参加生徒へのアンケート調査(20)

交流会終了後に、翁祐中學の参加生徒 18 人に対して、アンケート調査を行った。

質問 1 交流会の前は、日本という国について、どんなイメージを持っていましたか。

< 代表的な声 >

芸術・伝統文化	科学技術	若者文化	人々	街、自然	物
芸術の国。文化の伝統が深い。お寺などが有名である。	科学技術の先進国。電化製品。	アニメが有名である。トレンドイ。流行ファッション。	付き合いやすい。サービスの態度がととも良い。	清潔で、都市が先進的である。景色が綺麗である。	綺麗で面白い。物価が高い。美味しい物がたくさんある。

質問 2 交流会の前は、日本の高校生について、どんなイメージを持っていましたか。

< 代表的な声 >

行動・態度、気質	服装	言語能力など
礼儀正しい。親切。勉強家。活発。お喋り好き。格好良い (COOL)。大人しい (上品・優雅)。冷たい。受身な態度。とてもオープンだけど、知らない人とのコミュニケーションはあまり取りたくない。静かである。	ファッションナブルで、トレンドイである。女子高生の制服は短い。流行の先端に立っている。格好良く、お洒落好きである。	英語力はちょっと香港より低い。賢い。

質問 3 日本の高校生との交流を通して、日本という国について、どう印象・考えが変わりましたか。

具体的に書いてください。

変わった	6人 (33%)	変わらなかった	12人 (67%)
------	----------	---------	-----------

< 「変わった」と答えた人の代表的な声 >

日本の学校はとても大きい。景色が綺麗なだけではなく、いろいろな文化が残っている。教育システム (6・3・3・4 制) が香港と違う。日本の高校生は思った以上に礼儀正しく、日本は礼儀の国だと言えと思った。

質問 4 日本の高校生との交流を通して、日本の高校生について、どう印象・考えが変わりましたか。

具体的に書いてください。

変わった	14人 (78%)	変わらなかった	4人 (22%)
------	-----------	---------	----------

< 「変わった」と答えた人の代表的な声 >

英語が流暢で驚いた。コミュニケーションも取りやすかった。礼儀正しい。活発で付き合いやすい。シャイだった。彼らはコミュニケーションを取りたくないのではなく、他人とどうやって付き合うか知らないだけだと深く認識・理解した。実はお喋りが好きだ。
--

質問5 交流会を終えて、日本語の学習をもっと頑張ろうという気持ちになりましたか。

はい	10人 (56%)	いいえ	8人 (44%)
----	-----------	-----	----------

質問6 今回の交流会で、一番印象に残っているのはどんな事ですか。具体的に書いてください。

<代表的な声>

日本の高校生について	活動	異文化理解
日本の高校生のステージでの大胆で流暢な英語のスピーチ。日本の学生たちは社会的で付き合いやすい。女子は親切で可愛く、男子は格好良くてハンサムだ。	バドミントン、食事、お喋り、プレゼント交換などの活動。	お互いの文化を理解し合えた。

4.2.2 参加生徒への聞き取り調査

交流会参加者の一人、Leさんに、交流会について聞き取り調査を行った。(21)

Leさん(女性) : F7を卒業したばかりである。F1-F5まで5年間、翁祐中學で日本語を学んだ。大学は経営学科に入学し、日本語は副専攻、選択科目、日本語学校などで、勉強を続けたいと思っている。日本や英国、オーストラリアの大学への進学意欲はあるが、経済的な事もあるので、チャンスがあるかどうかと考えている。日本の若者文化が好きで、Wind-sのファンである。

質問内容	肯定的感想	中立的感想	否定的感想
参加を決めた理由は何か。	交流会に参加したのは、日本人学生と交流できる、貴重な機会だからだ。		
一番印象に残っていることは何か。	日本の高校生は皆、素敵だった。日本の高校生が、私の側に座って、獅子舞を鑑賞して、圧倒されているのを見て、すごく嬉しかった。自分の文化を紹介できて、それが認められたのが嬉しかった。		
日本の高校生に対する見方がどう変わったか。		交流会後も、見方はほとんど変わらない。すごく優しく、礼儀正しいと思う。	
保護者の反応はどうか。	良い機会だったねと言っていた。両親も、日本語の勉強をサポートしてくれている。親も私がいろいろな経験ができて、勉強ができて、嬉しく思っているようだ。		

質問内容	肯定的感想	中立的感想	否定的感想
日本語をもっと勉強しようと思ったか。また、具体的な日本語学習の計画はあるか。	日本語の学習を必ず続けようと思うようになった。大学に入学しようと思いを新たにし、入ったら、当然、大学で日本語を続けようと思うようになった。副専攻でも、チャンスがあれば学びたい。もし、入学できなかつたら、民間の日本語学校で勉強したい。前々から思っていたが、交流会に参加して、学習意欲が強まった。		
日本や日本人に対する見方がどう変わったか。		大きな変更はない。今まで信じていた事の確信を強めた。例えば、礼儀正しい点や、恥ずかしがりやなところや、ちょっと受け身な態度などである。	
自分自身がどう変わったか。		わずか3時間の交流で、大きなインパクトはなかったが、その時、今まで勉強して来たことが通じなくて、もっと謙虚にならなきゃと思った。また、「これは通じるかな」と考えてから話すようになった。	
将来、日本語で何をしたいか。	日系企業で働くのが、第一志望で、日本語教師は第2希望だ。		日本で働きたいが、不可能ではないかと感じている。

アンケートでは、3割を超える生徒が、日本への印象・考えが変わったと答え、8割近い生徒が日本の高校生への印象・考えを変えている。また、日本語学習への意欲が増した生徒も6割近くいる。日本の高校との交流会は継続して行われており、2010年には千葉県と神奈川県2校の高校生を迎え入れる予定である。(22)前出のふみさんは、司会やアシスタントとして参加した。日本の高校生の印象を「礼儀正しく、お話好き。女子は香港の女子生徒より気が長いというか忍耐強く、男子はシャイだと思った」と語る。この交流会で知り合った日本の高校生と、Face bookで交流を続けている。交流会は実際には3時間ほどの交流であったにも関わらず、中学生に大きな印象を与え、日本や日本人高校生への考えを変えさせるものとなった。日本や日本人高校生に対する理解、認識の深まりなど、対日観や対日本人観の変化が見られた。このような交流活動の意義は大きいと言える。

4.3 第5回香港中高中生日本語スピーチ大会への参加—参加学生への聞き取り調査(23)

2009年4月25日に、第5回香港中高中生日本語スピーチ大会が開催された。翁祐中學からも、朗読部門で一人参加し、「2009年日本香港観光交流年特別賞」を受賞した。翁祐中學では、第2回から参加者を送り出しているが、受賞者を輩出したのは、今回が初めてである。参加者のCさんに、スピーチ大会について、聞き取り調査を行った。

Cさん(女性)：インタビュー時で、日本語を学習して半年未満である。翁祐中學の系列校、順徳聯誼總會伍晃端小學で、3ヶ月日本語を勉強した。小学校1年生の時、日本留学を決意した。ある店で日本人大学生に会って、会話を聞いて、会話の内容はわからなかったが、音がきれいで格好良いと思ったので、学びたいと思った。日本の若者文化、ファッションが好きで、日本の雑誌を読むのが好きだ。お祭りの浴衣や法被も好きである。

質問内容	肯定的感想	中立的感想	否定的感想
参加を決めた理由は何か。	ずっと日本語が好きで、日本に留学したい。日本文化に興味があり、日本語教師になりたいという夢がある。もっと日本語を上達させるチャンスだと思った。		
コンテストに参加して、どう思ったか。	一番大切なのは、経験を得ること、そう考えて、気持ちを落ち着かせた。この経験は日本留学に役立つと思った。		すごく緊張して、不安で、最初は賞を目指す気がなかった。
賞を受賞したことをどう思うか。	私も、やっと自分の得意科目が見つかったという思い。「日本語は私の得意科目です」って、他の人に言える。		
保護者の反応はどうか。	ママがすごく喜んでくれた。自分の娘が、こういう成績をもらって、すごく満足しているようだった。	親はあまり日本語学習には関与してこないけど、サポートをしようという態度はみせてくれている。	
参加してみてもっと勉強しようと思ったか。	もっと勉強しようという思いが強くなった。賞品が図書券だったので、日本のアニメの本などを買いたい。		
将来、日本語で何をしたいか。	日本語教師になりたい。日本人と日本語で話すのは楽しい。日本語を母語にしたい。日本に住みたい。桜の木が見えるところに住みたい。		

質問内容	肯定的感想	中立的感想	否定的感想
参加を通じて、日本や日本人に対する見方がどう変わったか。	今の日本人はとても優しく、付き合いやすいと考えている。		中国との歴史の問題で、前は日本人は屁理屈だと思っていた。
参加を通じて、自分自身がどう変わったか。	賞を取って、自分の中で目標がはっきりした。「もう、日本語で行こう！」という思いだ。日本語能力試験も受けたい。		

従来、民間の日本語学校で学んだ生徒が賞を独占してきた中では、画期的なことと言える。受賞した生徒は、日本のポップカルチャーを愛好し、学習の動機付けにもなっている。また、「この経験がきっと日本留学に役立つ」と信じ、自らを高めようという意欲が見られる。また「日本語が得意です」と言えるようになったと、自分に自信を持つようにもなった。さらに、日本語に対する意欲が増し、「日本語を自分の将来の軸に据える」という目標を定めた。ふみさんも日本語能力試験 3 級の受験を決めた理由として、「目標に向かって努力を続ける力を身につけて、自分を高めたい」と語っている。また、「受験は将来のためにも良いと思った。日系会社に就職し、いずれは日本で働きたい」と述べている。日本語学習や課外活動への参加が生徒の成長を促し、将来に対する希望を繋ぐ事例だと言える。伊藤・牟田(2006)によると(24)、近年グローバル化の動きの中で、国や地域を越えて労働をする人が増加していると言われている。その重要な資源として外国語の習得が挙げられる。視野を広げ、国境を越えて活躍の場を求めるように意識が向くようになった事は、日本語学習が生み出した成果だと言える。

4.4 21 世紀東アジア青少年大交流計画—参加学生への聞き取り調査(25)(26)

C さん(女性)：F7 の 18 歳。F1-F3 で日本語を学習した。以降は学習経験はない。大学に進学したら、日本語の科目を取りたいと思っている。日本のドラマや映画、アニメソングが好きで、SMAP の木村拓哉のファンである。

質問内容	肯定的感想	中立的感想	否定的感想
参加を決めた理由は何か。	政府の企画なので、素晴らしいイベントになると思った。最近の日本の発展について知りたいと思ったし、日本人の友人を作って、日本語を話したかった。日本と香港の高校生の違いを知りたかった。		
参加して、どう思ったか。	環境保護についてなど、多くの知識を得る事ができた。香港人、日本人の友人がたくさんできた。ショッピングモールの見学では、日本経済についても知る事ができたのが良かった。剣道について、印象深く思っている。高校で伝統文化を守っている事に感心した。		事前準備が大変だった。歌やダンスの練習に多くの時間を費やしたが、日本での交流の時間は短かった。時間厳守過ぎて、ついていくのが大変だった。日本のライフスタイルに適合できなくて、ホームシックになった。日本は玄関で靴を脱ぐなどルールが多くて、面倒に思った。ショッピングモールでは、販売員の接客態度について知ることができたが、もっと企業の戦略やオペレーションについても知りたかった。日本の経済発展の秘密が知りたかった。
保護者の反応はどうか。	貴重な機会だといって、家でのダンスの練習の際にはコメントをくれたり、持って行くものの準備を手伝ってくれた。		日本滞在中は E メールで連絡を取り合っていて、食事や気候が合うかなど心配していた。
参加してみて、日本語をもっと勉強しようと思ったか。	日本に行く前は、日中の関係に日本語は関係ないと思っていたが、今は日中の交流を繋ぐ大事なものだと思えるようになった。日本人とコミュニケーションを取りたいので、A level(27)の試験の後で、日本語学校に通いたい。		中国人にとって、日本語はセンシティブなもので、勉強するのは遠慮したい気持ちがある。
将来、日本語で何をしたいか。	日本語教師ではなく、歴史教師になりたい。日中間には歴史問題があって、日中の歴史への理解を促したい。		

一 順徳聯誼總會翁祐中學の事例から一

質問内容	肯定的感想	中立的感想	否定的感想
参加を通じて、日本や日本人に対する見方がどう変わったか。	日本人はとても礼儀正しいという事は行く前から知っていたが、行って確信した。学生の振る舞いが秩序だっていて、丁寧で、先生や年長者を敬っている。日本は中国と同じで、礼儀や道徳を重んじている事が分かった。	行く前は日本の男子学生は行動的だと思っていたが、実際はとてもシャイだった。逆に、女子学生は、消極的で、優しく、物静かだと思ったが、実際は、自立していて、独立心があって、お喋りが好きで、ファッションや携帯のデコが可愛くて、全身にエネルギーが満ちていた。全く考えが変わった。	
参加を通じて、自分自身がどう変わったか。	色々な人会遇到、人前で話した事などの経験を通して、自分に自信がついた。異なる人どう協力していくかが学べ、コミュニケーション力がつき、問題を解決する力が身についた。異なる背景の高校生が集まって、よりよい選択の為には、他人の意見をよく聞く事が大切だと分かるようになった。		他の参加者を見て、勉強以外で私は何もできないと知った。皆、私に比べて、自立していた。

Cさんは日本滞在を通して、日本への理解を深めた。また、背景が異なる人とのグループワークを通して、自らを内省し、自己を成長させる事ができた。日本について、もう一步踏み込んで、より深い部分で理解を進めたいと考えている。次世代を担う若者のために、通り一遍の交流や施設見学だけではなく、日本に実際に行って、日本人と意見交換をしなければ分かり得ないような内容を取り込んだ活動を行う必要があると考える。

5. 調査を終えて

調査を終えて、様々な問題を抱えながらも、この8年間の努力は確実に成果として表れている事が分かった。日本語学習や体験活動を通して、日本語に対する意識が高まり、日本人や日本に対する見方が変化している事が明らかになった。

また、日本のポップカルチャーに親しみ、様々な情報機器ツールが日々進化していく現在にあつては、香港の中学生を取り巻く環境も従来と大きく変化している。日本語能力試験3級合格者のふみさんは、「日本語の会話や聴解を練習する機会があまりない。マルチメディアの利用がその解決策になる」と述べている。(28)従来からの日本語教育の手法が今後、現状のまま通用するとは考えにくい。21世紀の新しい形の教授法、教材・教具を取り入れていかなければならないと考える。筆

者は、授業や課外活動で、中学生の関心が高い日本の伝統文化、現代文化を積極的に取り入れることの重要性を指摘し、以下に新しい時代の日本語学習のためのいくつかの提案を行いたい。

1：授業で Web 版無料日本語学習サイトを活用する。例えば、国際交流基金の Web 版日本語学習サイト「エリンが挑戦！にほんごできます」「アニメ・マンガの日本語」などがある。2：授業で Skype などを使用し、会話練習に役立てたり、情報機器を利用した日本語学習（YouTube、iPhone、iPad の日本語学習コンテンツ等）を紹介する。例えば、iPhone には日本語の語彙、漢字の学習や、日本語能力試験対策のアプリケーションがあり、可愛い動物が自分の声をリポートする「Talking Tom」を使えば、発音の練習の助けになる。3：日本人との交流にソーシャルネットワーキングサービス（mixi、facebook 等）を活用する。4：香港における日本文化関連諸団体・個人（柔道、空手、茶道、華道、日本舞踊、着付け、小笠原流礼法、日本料理、折り紙など）との連携・交流を強化する。

日本文化の教材化に関してだが、香港中文大学日本研究学科の Anthony Ip 講師は、2008 年に香港で行われたセミナーの中で、「日本のポップ・カルチャーは香港の日本語学習者なら皆興味がある分野」だとし、しかし一方で、「文化的な差異をどう乗り越えて、理解に至らせるか」、その難しさを指摘している。(29)また、前国際交流基金日本語教育アドバイザーの金秀之氏も「日本のポップカルチャーの教材化は難しい。日本語教材として使用する際は、かなり強制的な切り貼りが必要」だと同セミナーの中で述べている。

ポップカルチャーを日本語学習で扱うことについて、このように難しさを指摘する研究者がいる一方で、その必要性を説く論文もあり、小倉(2010)は、日本のポストモダン文化への興味が主たる学習動機となって、日本語を学びたい人が増えている事に言及し、このようなニーズに対応するため、日本文化紹介と一体化させた形で日本語教育（例えば、漫画の描き方、漫画紹介とそれと一緒に初歩的な日本語を教える）行うといった形の企画が必要になりつつあると述べている。(30)

6. おわりに

曾蔭権行政長官が 2009 年 10 月 14 日に行った 2009-2010 年度施政方針演説(31)では、小中学校で中国事情のあらゆる面に関する事を強化し、中国本土との交流活動に参加させ、知識と経験を融和させる事を述べている。義務教育においては、政府の言語政策に左右される面があり、今後の政府の方針に、中等教育での日本語教育も大きく影響を受けていくことが予想される。政府としては、英語教育重視の姿勢を取っており、日本語については、力点を置いていないのが現状だ。

また、日本と中国との政治的、経済的関係も日本語教育への影響の上で無視できない要素だと言えよう。実際、当該校の歴史の授業の中で「2010 年 9 月の中国漁船衝突事件など、尖閣諸島問題について先生はどう考えているか」と生徒から質問があったと言う。(32)日中間の歴史問題について

は、香港における日本語教育の現場において語られる事が少ない。香港では「香港」に対する愛郷心を持つ人が少なくない。その同心円的な拡大(33)として中国に共感を持っている香港人も多い。しかし、日本語教育においては、その同心円的な感情を持ち込まない事が多いと感じる。

政府の支援不足の中、翁祐中學は開校以来独自の取り組みを積極的に続けてきた。それにより得られた成果が学校内の空気を変えた事について、「ふみさんの日本語能力試験3級合格について学校内の皆が驚き、非常に高く評価している。日本語科に対する見方が大きく変わり、学校側も支援の姿勢を見せ、予算も増えた。必要な教材は何でも購入でき、日本語能力試験対策のための資金も出ている。」と蘇講師は語った。(34)

2009/2010年度の学校案内では、ふみさんが生徒の一人として表紙を飾っており、日本語能力試験3級合格の事も含めて、日本語科の発展について3ページに渡って紹介している。2010年5月に在香港日本国総領事館へ学校案内を送ったところ、6月に坂田国彦領事の名で校長宛に御礼の手紙が届いた。(35)(36)香港の日本人社会からの心的支援も中学校での取り組みを促進する上で大きな力になると考える。そのような支援を得るために、中学校での取り組みを社会に積極的にアピールしていく事も必要だろう。

山田(2006)は、台湾の言語政策について、本国語文と郷土言語と英語を学ぶ事によって、多文化理解を促進するという事を目標としていると指摘している。(37)まさに、翁祐中學における日本語教育の取り組みは、多文化理解に果たした役割が大きいと、生徒へのアンケート調査や聞き取り調査を通して感じた。教師側は日本語の習得と異文化理解について同程度の比重で行いたいと考えているが、(38)現状では日本語学習の一部に異文化理解教育を取り入れる形になっている。(39)中学生は興味が文化面に偏重しているなど、両者間にギャップがある。このギャップをどう摺り合わせていくかが、今後の課題ではないかと考える。また、一部の生徒が課外活動への参加の機会を得るのではなく、全体参加を通して、学校全体として日本語及び日本文化への関心を高めるように結び付けていく事も重要だと考える。

注

- (1) 国際交流基金『海外の日本語教育の現状＝日本語教育機関調査・2006年改訂版』pp92-93
- (2) 香港日本語教育研究会 <http://www.japanese-edu.org.hk/>
- (3) 2009年6月から7月まで、香港中文大学で第7回目のアニメソング歌唱大会の予備選を4日間12回に分けて行い、決勝戦を8月に同大学で開催した。参加者は約120組。
- (4) (5) 在香港日本国総領事館 <http://www.hk.emb-japan.go.jp/>
- (6) 2010年10月18日プログラム・コーディネーターの上村勝雄氏への電子メールでの聞き取り
- (7) 2010年10月18日電子メールでの聞き取り
- (8) (10) 『Current Situation of Japanese Language Education in Hong Kong Secondary School 2009』香港日本語教育研究会
- (9) 香港日本文化協会日本語講座、香港中文大学專業進修学院、香港大学專業進修学院、Pasona Educationなどがある。
- (11) 順徳聯誼總會翁祐中学は新界元朗地区に、2001年に設立された男女共学の津貼中学。2009/2010年度の数字で、教師数76人、学生数1209人。(資料は2009/2010年度学校案内及び <http://www.chsc.hk/secondary/tc/schoollist.asp?District=YL> より)
- (12) 片桐雅隆(2009)「若者が若者を語る時」『社会と調査』第3号社会調査協会 有斐閣
- (13) 2008年7月31日回収。
- (14) 文(ふみ)さんのプロフィール。女性。2010年10月現在、F5の学生である。翁祐中學の系列校の順徳聯誼總會伍晃端小學でP6の時、日本語学習を開始した。翁祐中學ではF1-F3時に必修科目として、以降は蘇講師のボランティアによる夏休みの集中講座や放課後の特別授業で学び、学校外での日本語教育は受けていない。2009年の夏に、校内限定の日本語能力試験対策講座を受講した。当時はまだ何級を受験するか決まっていなかったが、2ヶ月の試験勉強後、蘇講師のアドバイスで、本人の意向もあり、4級受験を経ずに、日本語能力試験3級に初めて挑戦し、2009年12月に合格した。蘇講師によると、3級合格のために自分の意志で努力する姿を見せたという。(2010年10月30日の電話による聞き取り)日本の歌手では中島美嘉と宇多田ヒカルが好きだ。
- (15) (19) 2008年9月6日蘇凱達講師への聞き取り。
- (16) 可持續發展委員會 <http://www.susdev.gov.hk/>
- (17) (21) (23) 2009年5月8日聞き取り。
- (18) 2010年10月7日聞き取り。
- (20) 2008年9月6日アンケート回収。
- (22) (32) (34) (36) 2010年10月7日日蘇凱達講師への聞き取り。
- (24) 伊藤公雄・牟田和恵編(2006)『ジェンダーで学ぶ社会学』世界思想社 pp32-40, pp190-192

- (25) 2009年10月8日聞き取り。
- (26) 2009年9月23日(水)、日本人倶楽部において香港高校生訪日団の帰国報告会を行った。香港・澳門高校生招聘プログラムは日本政府の「JENESYS」プログラムの一環として、2008年より行われている。香港の高校生55名が2009年7月8日から16日までの9日間、東京や山梨県で学校交流を行った他、清掃工場、防災・科学館などの施設を訪問した。
- (27) 香港高級程度會考 (Hong Kong Advanced Level Examination)
- (28) 2010年10月22日アンケート回収。
- (29) 2008年9月13日香港日本語教育研究会月例会でのAnthony Ip氏の講演内容。
- (30) 小倉和夫(2010)「海外における日本語教育推進のための基本政策はいかにあるべきか」国際交流基金 <http://www.jpfi.go.jp/j/about/survey/bp/index.html>。
- (31) 2009-2010 施政報告 [gov.hk/09-10/chi/p116.html](http://www.gov.hk/09-10/chi/p116.html)
- (33) 姜尚中(2006)『愛国の作法』朝日新聞社 pp143-145。
- (35) 2010年10月19日在香港日本国総領事館坂田国彦領事への電話での聞き取り。
- (37) 山田千明(2006)『多文化に生きる子どもたち』明石書店 pp143-144, pp153-156。
- (38) 2010年10月27日蘇凱達講師への聞き取り。
- (39) 2010年10月30日蘇凱達講師への聞き取り。

参考文献

- リブネ宮崎紀子(2006)「香港の中等教育機関における日本語学習についての一考察-中学生日本語学習者は何を求めているか」『日本学刊』第10号香港日本語教育研究会
国際交流基金『海外の日本語教育の現状=日本語教育機関調査・2006年改訂版』
小倉和夫(2010)「海外における日本語教育推進のための基本政策はいかにあるべきか」国際交流基金
蘭由岐子(2009)「いま、あらためて“声”と向きあう」『社会と調査』第3号社会調査協会有斐閣
片桐雅隆(2009)「若者が若者を語るとき」『社会と調査』第3号社会調査協会有斐閣
山田千明(2006)『多文化に生きる子どもたち』明石書店
伊藤公雄・牟田和恵編(2006)『ジェンダーで学ぶ社会学』世界思想社
西川長夫(2001)『国境の越え方』平凡社
姜尚中(2005)『反ナショナリズム』講談社
姜尚中(2006)『愛国の作法』朝日新聞社